

世界を駆け巡ったSNS

中国・三峡ダム崩壊の

恐怖



よしむら かずなり
吉村 和就

グローバルウォーターシヤン代表
国連テックニカルアドバイザー
水の安全保障戦略機構技術普及委員長
日本水フォーラム理事

中国の長江中流域に建設された三峡ダムは、当時の李鵬首相が治水や発電を目的に強力に推進した大国家プロジェクトで、ダム建設は十七年を要し、当時二千億元（約三・一兆円）を費やした国家のプライドとも言える世界最大のダムである。そのダムが歪んでいるというソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）の指摘が世界を駆け巡った。では、なにが真実なのか？ 今後三峡ダムはどうなるのか？ 世界はその行方に注目している。

◆グーグル衛星写真が物議の発端

三峡ダムの崩壊疑惑は、あるツイッタターのユーザーが投稿した「一枚のグーグルマップの衛星写真」から始まった。投稿された写真ではダムの堰堤が歪んでいるように見え、崩壊の兆しか？ と指摘。そのニュースが中国国内のSNSで拡散、さ

らに他のネットユーザーから「二〇〇九年と二〇一八年のダム堰堤写真」を比較した画像が出回り、「深刻な歪が一目で判る」などと、今度はSNSを通じ「世界最大のダムが崩壊か！」と世界中に拡散された。

◆人民日報は全面否定……

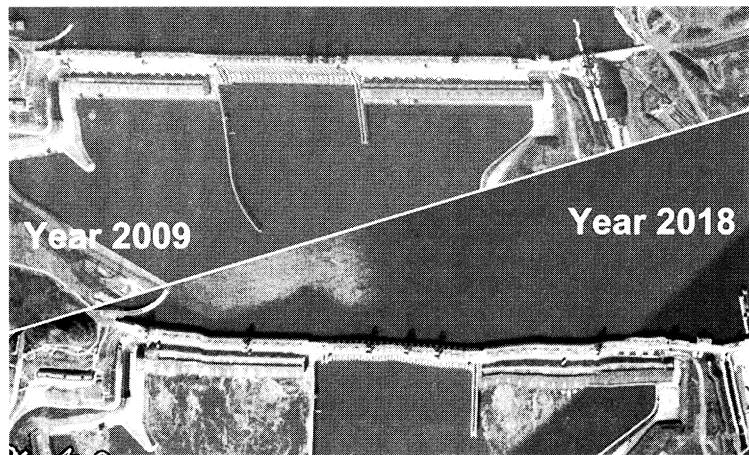
三峡ダムは構造的に健全で、決壊の恐れはない

国営電力会社・中国長江三峡集団は、ダムは構造的に健全で、決壊の恐れはないと公式に全面否定している。同社の専門家は、ダムは温度や水位の変化で数ミリだけ動いているが、安全性に問題がない。（ロイター通信）

七月五日人民日報の傘下の国際情報紙「環球時報」は、専門家の意見として世界で使われているグーグル

ネット上に出回った三峡ダム

2009年（上）と2018年（下）との比較写真



マップの衛星写真にはリモートセンシング（遠隔操作）による画像に歪が生ずる可能性がある旨の解説記事を掲載。さらに共産党の機関紙、人民日報の姉妹紙グローバルタイムズ（七月七日付け）は、中国の衛星「高分」が撮った高解像度の写真を掲載し、ダム自体に歪はなく安全だと訴え、専門家のコメントとして「ダムは千年安心で、地球の重力は別として、洪水や地震といった外部からの力で変形することはない」と国を挙げて全面否定している。しかし「中国政府が安心だ、安心だ」と繰り返すほど、過去の歴史から学んでいる人民の不安と恐怖は増加している。

◆三峡ダム完成しても十年も持たない……河川工学者 黄万里博士の言葉

二〇〇一年に他界した精華大学の河川工学者、黄万里氏は、イリノイ大学で河川工学を学び、三峡ダム建設に強く反対した。ダム建設により三峡の上流に位置する山や長江沿岸部の崩壊、洞庭湖の水位低下、生態系の壊滅、ダム地盤の弱さなどを警告し、建設しても「三峡ダムは、十年も持たない」と断言していた。今年が、その十年を迎えるということと不安感が広がっていた。

◆三峡ダムの見学、一時中止の通知が、さらなる不安を呼んだ

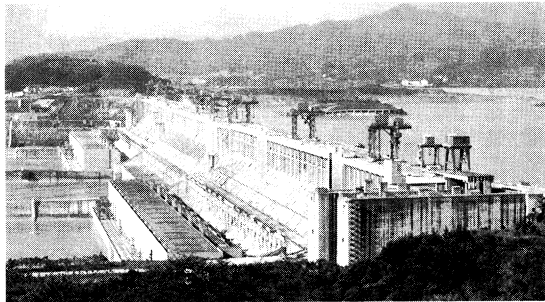
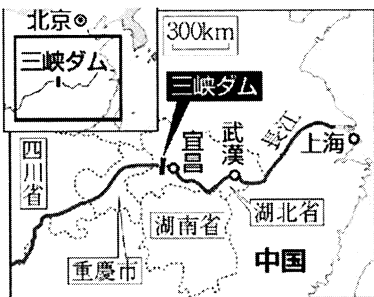
宜昌三峡ダム（大漢布）を管理している「宜昌三峡大漢布風景区有限公司」は七月六日から十三日まで一週間営業を一時停止すると発表、「やはり崩壊の危険か？」このニュースもSNSを通じ拡散した。メディアの記者が有線電話に対し「このよ

うな事例（見学停止）は過去にあったのか？ と質問、回答は「営業開始して以来、初めての事態である」と伝えられた。ダム本体とは関係ないが、その上流域の出来事が連想ゲームで拡散された。

◆三峡ダムに関する

公的な数値

長江（別名・揚子江）中流域に位置する三峡ダムは、重力式コンクリートダムで、堤高（ダム高）百八十一メートル、堤頂長約二千三百十メートル、発電も兼ねており最大出力は二千二百五十万キロワットで、年間発電総量が一千億キロワット時に上る世界最大の水力発電ダムでもある。建設の為に流域に住んでいた約百四十万人が強制的に移住させられた。反対派は、もちろん牢獄入り、また工事の手抜き、賄賂の横行などもあったらしいが、すべて地下情報であり真偽のほどは不明である。「中国の発表する内容で一番正確なことは？ それは発表された日付のみである」という国際的なジョークもある。



三峡ダム

◆建設中に発生した問題事例

三峡ダム、二〇〇六年から貯水を始めたが、早くも地盤に亀裂や地滑り、山崩れが発生し、その危険箇所は五千三百八十六ヶ所に及び、それらの補修工事を行った事実も中国政府は認めている。「ひび割れはあるが、問題はない、補修工事を行っている」と（二〇〇七年四月二十日付け）

中国は世界一のダム王国で、全国に約八万七千基以上のダムが存在しているが、そのうち三万基（大規模ダム二百基、中規模ダム千六百基を含む）に深刻な構造欠陥があると政府の代弁者である新華社通信は伝えている。（注：国際的なダムの定義は堤高十五メートル以上がハイダム、それ未満をローダムと称しているが、中国は国防上の理由でダム全数、場所を明らかにしていない）しかしダム情報は徐々に漏れてきている。

具体例として中国水源機関の報告によれば、一九五四年から二〇〇三年（四十九年間に中国で建設されたダムの三千四百八十四基は決壊している、平均すれば年間に七十一基、五・一日に一基の割合でダムが決壊していると、恐ろしい現実をも明らかにしている。

海外メディアのAFP通信（フランス最大の通信社、世界最古の報道機関）は中国政府の隠蔽体質として、一九七五年八月に河南省中部を襲った豪雨災害でダム六十二基が決壊し、少なくとも二万六千人が死亡、一千万人以上が深刻な被害を受け

たが、この被害数字は数年間、隠蔽されたままだったと報じている。ダムが大量に決壊したことに関し専門家は、技術上の欠陥が放置されたのが原因だと指摘している。中国全土のダムのうち、約七割がアースダム（古典的な型式で主に現地の土を使い、台形状に形成して建設）で経験的なノウハウと高い技術力が要求されるが、単に積み上げられたダムが多い。

日本では地震が多いことや洪水時の越水に弱いことから堤高百メートル以上のアースダムは建設されていない。（熊本・清願寺ダム、堤高六〇・五メートルが最高）

◆仮にダムが崩壊したらどうなる？

これも仮定の話としてSNS上で出回っている。世界最大のダムが崩壊したら、長江の河口部にある上海は壊滅的な破壊、すべての都市機能が完全にマヒし、市民の飲み水すら枯渇すると予測されている。

あとがき

ネットユーザーが投稿した一枚の衛星写真が引き起こしている「三峡ダム崩壊か？」のニュースであるが、もし崩壊したら日本にも大きな影響があるだろう。その編については、ネット検索で「三峡ダム、崩壊、環境問題」と入れれば山ほどの情報があふれている。真偽のほどは別として……。